

待合室を医療資源として再活用することを提言します

シンポジウム『待合室から医療を変えよう!』 参加者募集のご案内

2013年3月24日(日) 13:00~16:50

東京大学本郷キャンパス 情報学環・福武ホール B2「福武ラーニングシアター」

主催:東京大学公共政策大学院 医療政策教育・研究ユニット(HPU)

医療政策実践コミュニティ(H-PAC)『待合室から医療を変えようプロジェクト』

東京大学公共政策大学院・医療政策教育・研究ユニットにおける医療政策実践コミュニティ(H-PAC)『待合室から医療を変えようプロジェクト』(略称:待合室プロジェクト、代表:河内文雄、医療法人社団 以仁会 理事長)は、来る2013年3月24日(日)13:00から16:50まで、福武ラーニングシアター(東京大学本郷キャンパス情報学環・福武ホールB2)において、「待合室から医療を変えようシンポジウム」を開催いたします。



本シンポジウムは、医療政策実践コミュニティ(H-PAC)の有志で構成される『待合室プロジェクト』が、医療機関における待合室という“空間”の機能や価値、可能性を考えるために行うものです。2012年4月からの自主的研究活動のまとめとして、そして今後、“待合室から医療を変えていこう”という機運が社会運動として持続していくためのきっかけになればと開催するものです。

現在、我が国の医療機関の受診者総数は一日あたり約750万人ですが、将来は1,000万人に及ぶと推測されています。そうした中、待合室はかなり改善されてきたとはいえ、大多数の待合室は決して心地よい空間ではありません。機能的にも、患者さんがほぼただ待っただけの場になっています。

一方、全国に一般診療所(クリニック、医院)の待合室は約10万ヶ所、歯科診療所が約7万ヶ所、さらに病院の総合待合室が9千ヶ所、各科待合室がその10倍以上として、合わせて約27万ヶ所もの待合室が存在している推計になります。「待合室の潜在的価値をもっと生かすことはできないものか」という問題意識が、本プロジェクトの出発点です。



当日は、建築学の観点から「病院地理学」を研究している東京大学工学系研究科建築学専攻・岡本和彦助教の基調講演をはじめ、合計8題のプレゼンテーションを予定。発表者のバックグラウンドも患者、医師、栄養士、メディア、健康情報、PR、ITと、多種多様な顔ぶれとなっています。プレゼンテーション後は、『待合室プロジェクト』メンバーによる追加発言を4題行い、その後、発表者全員による全体討議を行います。

医療関係者や企業関係者のみならず、一般の皆さんにも是非聴いていただきたい内容となっています。参加ご希望の方は、インターネットの専用ウェブサイトからお申し込みください。たくさんのご応募をお待ちしています。

シンポジウムに関する実施概要、および参加申込方法については、以下の通りです。

<シンポジウム実施概要>

- 日 時 : 2013年3月24日(日) 13:00~16:50
※開場・受付開始 12:30
- 場 所 : 東京大学本郷キャンパス
情報学環・福武ホール B2 「福武ラーニングシアター」
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
TEL 03-5841-0328
※案内略図(以下の URL をご参照下さい)
<http://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp/access/>
- 主 催 : 東京大学公共政策大学院 医療政策教育・研究ユニット (HPU)
医療政策実践コミュニティ (H-PAC)
『待合室から医療を変えようプロジェクト』
- 募集人数 : 184人(先着順)
- 参加費 : 無料
応募締切 : 定員に達し次第、受付を終了します。
※お早めにご応募下さい。
- 申込方法 : 参加ご希望の方は、下記の専用ウェブサイトから必要事項を明記の上、お申し込み下さい。
<http://kokucheese.com/event/index/71366/>
- 式次第 : 13:00 開会
問題提起(オープニング・リマークス)
河内 文雄(待合室プロジェクト代表、医療法人社団 以仁会理事長)
13:05 基調講演『待合室は誰のもの? 建築設計の視点から』
岡本 和彦(東京大学大学院 工学系研究科建築学専攻 助教)
13:35 演題①『病院待合室の今ー病院機能評価だけでは見えない待合室の現状/可能性ー』
花木 奈央(名古屋第二赤十字病院 救急科医師)
演題②『待合室の本棚で医療情報を学ぶ』
石井 保志(健康情報棚プロジェクト代表)
演題③『おしゃれなカフェを待合室に~患者期待の上をいく~』
鈴木 信行(患医ねっと代表)
14:20 休憩(5分)
演題④『パブリックリレーションズ(PR)の場としての待合室』
増田 英明(電通パブリックリレーションズ)
演題⑤『待合室の栄養士』
前田 恵理(東金病院 栄養科 管理栄養士)
演題⑥『待合室が再構築するコミュニティ機能』
山崎 大作(日経BP社 日経メディカル記者)
演題⑦『ビジネスの視点で待合室を再考する』
大西 大輔(メディキャスト株式会社メディブラザ事業部統括マネージャー)
15:30 休憩(15分)

- 15:45 全体討議
◆ファシリテーター：河内文雄、加藤忠
◆パネリスト：石井保志、花木奈央、増田英明、山崎大作
◆会場からの追加発言：あらかじめお願いした方々
- 16:45 まとめ（クロージング・リマークス）
埴岡健一（東京大学公共政策大学院 特任教授）
- 16:50 閉会

※本プロジェクトに関する専用ウェブサイト：<http://machipuro.jimdo.com/>

《ご参考》

医療政策実践コミュニティ(Health Policy Action Community;略称 H-PAC)は、東京大学公共政策大学院 医療政策教育・研究ユニット（略称 HPU）における自主的社会的活動との位置づけで、2011年4月に立ち上げられた、医療政策に関する実践的グループ活動を行う研究会です。2012年4月から2013年3月まで、第2期生が活動中です。

さまざまな社会的な課題があるなか、日本人が最も重視している政策領域は「医療」です。同時に、国民の9割以上が現行の医療政策に不安を抱えているとも報告されています。医療財源の確保、医療事故の防止、医師の質の向上など医療にまつわる課題の多くは、いまだに改革の道筋が定まっていません。

国民が何よりも重視し、大きな不安を抱えている医療分野において政策立案また改革推進を考えることがH-PACの目的です。そのためには、①患者支援者（患者団体、市民団体リーダー・メンバー、患者団体のサポーターなど）、②政策立案者（政治家、行政官、地方自治体職員など）、③医療提供者（医師、看護師、各種医療職、介護職、医療機関経営者、学会関係者など）、④メディア（新聞記者、専門誌記者、ジャーナリスト、ライターなど）といった医療政策を担うさまざまなプレイヤーが一堂に会し、立場を超えて医療の将来に関する洞察を深め合うことが必要です。また政策立案のためのアプローチも、従来からの医学や財政学に加えて、哲学、経済学、経営学、社会学、政治学、法学、工学、情報学などの多様な学問分野を活用することが求められています。

こうした状況を踏まえたうえで、H-PACでは、「医療を動かす」をモットーに、実践的な活動を行っています。すでに社会の様々な場で医療にまつわる業務・活動を行っている方々が集い、上記の4つのステークホルダーが混ざったグループを形成し、メンバー全員が問題意識とアプローチを共有し、現在の医療の喫緊の問題を共に議論し、共同で「グループ研究・成果物」をまとめます。

以上

本件に関するお問い合わせ先

◎担当：『待合室から医療を変えようプロジェクト』事務局
担当：加藤 忠(博報堂)

◆報道関係の皆さま：080-2036-9820（平日10：00～17：00）

◆一般の皆さま：<https://ssl.kokucheese.com/event/inquiry/71366/>（メールのみの受付）